令和元年度　椎葉村立大河内小学校　学校関係者評価書

４段階評価	４　期待以上　３　ほぼ期待どおり　２　やや期待を下回る　１　改善を要する

学校経営ビジョン	本村の重点課題である「徳育」コミュニケーション能力の育成と「知育」学力向上を最重点目標にすえ、「体育・食育」「地域との連携・協働」の重点目標を達成するために、職員が愛情と情熱をもち、家庭や地域との連携を図りながら、組織的に全力で取り組む。また、保護者や地域住民の信頼と期待に応え、大河内小の子ども、教師、保護者が自分や学校、地域に自信と誇りがもてるようにするための学校経営を行う。

※ 関係者評価については、学校評議員の評価の平均値

項目	本年度の重点目標	具体的対策（手段）	自己評価	関係者評価	結果の分析・考察および改善策等	学校評価関係者からの意見
人間性・社会性の育成	感性を磨き，自分の思いや考えを的確に伝えるコミュニケーション能力等の豊かな人間性や社会性を身に付けさせる。	①　道徳教育の推進	３	３．０	○　各学級において特別の教科道徳の授業を充実させている。また、学校行事や生活科、総合的な学習の時間における体験活動を通して、規範意識や協力すること、思いやりの心を育てることにつながっている。	○　大河内小の児童のあいさつがよい場面を見かけることがあった。これからも様々な時や場であいさつするように育ってほしい。 ○　スマホやゲームなどの影響で、読書量が少ないのではないかと心配していたが、学校の様々な取組の工夫により、かなりの本を借りて読んでいることが分かった。今後も読書の充実を図ってほしい。
		②　生徒指導や人権教育の充実	３	３．２	○「あのねタイム」や生徒指導研修会を毎月実施することで、児童の交友関係や悩み等を把握することができ、全職員で共通理解が図れた。「いのちの教育週間」では、いのちを大切にする内容の学習を各学年の実態に応じて実践した。	
		③　読書活動の推進	３	３．２	○　図書担当の職員や図書委員会を中心にして読書を推進する環境づくり等を行っている。１１月までの児童への貸出冊数は、７７１冊で、１月平均７０冊と同じ時期の貸出冊数を上回っている。また、読書の日を設定したことで、家庭での読書活動を推進することができた。今後、親子読書も推進していく。	
		④　学校間連携や豊かな体験活動の実践	３	２．８	○　「２校間交流」では、小崎小の児童とニュースポーツなどを通して交流を深めることができた。稲作や芋の栽培、餅つきなど豊かな体験活動を行い、それぞれの活動場面や活動後の振り返りの場面で自分の思いを表現する場面を意図的に取り入れたことで、自分の考えに自信を持ち、表現できる児童も育ちつつある。今後も集団の場での表現活動を積極的に進めていく。	
授業力向上と学力向上	児童一人一人の学習意欲を高め、授業力並びに学習の資質・能力を向上させる。	①　「分かった・できた」と実感できる授業の実践	３	３．０	○　校内で研究している「確かな学力を身に付けた児童の育成」を全職員で共通実践することができた。さらに、本年度は、３回の支援訪問を経て、教師の授業力も向上し、児童が「分かった・できた」と実感できる授業を実践することが数多く見られた。	○　複式指導の難しさがあるが、今後も個別指導の充実を図ってほしい。
		②　基本的学習習慣の徹底	３	３．２	○　授業開始の号令等、児童にしっかりと定着し、全学年チャイムと同時に授業がスタートできている。授業開始、終了時の立腰の姿勢はしっかりとでき、学習のきまり等も全学年で共通実践するなど、基本的な学習習慣が身に付いている。	
		③　複式解消や個別指導の充実	３	３．２	○　低学年の国語や中学年の社会や理科で複式指導の解消を行うことで基礎学力の定着を図っている。また、業間活動の「学力向上タイム」や放課後の「アッシュタイム」でも全職員で児童の学力向上に関わることができた。今後も一人一人の実態に応じた指導を重視していく。	
		④　特別支援教育の充実	３	３．２	○　毎月の校内委員会や夏季休業中の特別支援研修を通して、職員の特別支援教育に関する知識や指導力が向上している。	

健康・安全と体力向上	体力・健康づくりの活動を充実し、食育・安全教育を推進させ、児童一人一人に望ましい習慣や実践力を身に付けさせる。	①　体力向上プランの完全実施	３	２．４	○　体力向上プランの完全実施に向けて、体育の導入時のサーキットトレーニングや握力や柔軟性を高めるために休み時間等に活用できる場の設定などを行ったことで、児童の運動に対する意識も高まり、体力も向上しつつある。今後も様々な運動を通して、児童の体力向上を図っていく。	○　身近な食材や地域で採れる食材に興味をもってもらい、食育につなげることができるとよい。
		②　健康教育の充実	３	２．８	○　業間活動の「すくすくタイム」を行ったことで、手洗い、うがいなど保健衛生習慣がしっかりと身に付いている児童が多い。また、「すくすくカード」で家庭との連携を図ったり、年２回の学校保健委員会を実施したりしたことで､保護者の保健に関する意識を啓発することができた。	
		③　食に関する指導の充実	３	２．８	○　給食時には、全校児童への栄養や望ましい食習慣について指導し、意識しながら食事できるようにしている。「弁当の日」の取組も計画的に実施することができ、児童と保護者が食に関する話題を共有したり、児童の食に関する意識が向上したりしている。食物アレルギーについては、今後も全職員で共通理解を図りながら対応していく。	
		④　危険予知能力や危険回避能力の育成	３	２．６	○　避難訓練や土砂災害防止教室等、地域の方にも協力いただき計画的に実施している。これらの活動を通して、災害時における「自分の命は自分で守る」という危険予知と危険回避能力については、知識として理解しているようであるが、日常生活における危険予知や危険回避能力は十分に備わっていない状況が見られる。今後は、廊下歩行や休み時間の過ごし方などの指導を通して児童の安全に対する意識向上を図っていく。	
家庭・地域との連携・協働	学校と家庭・地域との連携を通した教育活動を推進し、地域から信頼される学校づくりを行う。	①　地域を生かした学習の充実	３	３．０	○　春の遠足では、大河内地区の巨木や滝を巡り、地域の豊かな自然を感じる活動を行い、宿泊学習では地域の九州大学演習林施設を活用して、充実した体験活動を実施した。	○　先生方の地域への協力が学校の信頼を高めている。学校と地域の連携については、様々なアイデアをもとに実践を進めてほしい。 ○　学校図書館の開放等、学校の活動を小学生が現在いない家庭にも積極的に発信してほしい。
		②　学校と地域が一体となる活動の実施	３	２．８	○　臼太鼓踊りや神楽の伝承活動等、地域の方にご協力をいただきながら教育活動を実施してきた。学校だよりやホームページ等で学校の活動の様子なども積極的に発信した。学校図書館の開放については、地域の方にもう少し啓発していきたい。	
		③　地域からの学校支援活動の充実	３	２．６	○　地域の方に行事のお手伝いや読み聞かせを行ってもらった。計画的に地域の方に協力いただけるように早めに声かけ等をお願いする必要がある。今後は、地域支援員等のネットワークを活用した人材活用のあり方を考えていきたい。	
		④　地域から学校運営への参画促進	３	２．８	○　学校運営協議会を計画的に実施し、学校評価に関しても地域の方の意見を取り入れながら行った。今後はさらに地域の方の参画意識を高めながら、学校運営を進めていきたい。	

次年度の方向性	○　「特別の教科　道徳」の充実を図り、さらなる心の教育の推進を図る。 ○　学校間連携や地域の豊かな自然等を生かした体験活動を通してコミュニケーション力や自己表現力の育成を図る。 ○　キャリアパスポートを活用した、計画的なキャリア教育の実践を行う。 ○　「分かった・できた」とできる実感できる授業を実践し、新しい教育活動（プログラミング教育、外国語教育等）にも積極的に取り組む。 ○　体力向上プランを生かして、運動の機会の拡大等を計画し、児童の体力向上を図る。 ○　自分の命は自分で守るを前提とした、日常的な危険予知能力や危険回避能力の育成を図る。 ○　地域素材を生かした学習や集落支援員との連携、学校図書館の開放などを積極的に行い、地域に信頼される学校づくりを行う。